

平成24年6月1日(金)より皮膚科外来はまつなみ健康増進クリニックにて右記の時間に診療を行わせて頂きます。

- 診療場所…まつなみ健康増進クリニック 1階
- 担当医…皮膚科部長 永井 美貴

●月～金曜日の診療

受付時間	8:00～11:30
診療時間	8:30～12:00

●土曜日の診療

	初診の患者さまの場合 (紹介状をお持ちの患者さまのみ)	再診の患者さまの場合*
受付時間	8:00～10:00	8:00～10:30
診療時間	9:00～12:00	9:00～12:00

※土曜日の再診での診療は**完全予約制**となりますので、診療時間内(月～金曜日8:30～12:00)に皮膚科外来に電話をいただくか、主治医を通じて予約をお取り下さい。

講習会・イベントのご案内

第69回 開放型病床カンファランス 医療関係者向

日時:7月5日(木) 18:00～
場所:松波総合病院 3階講堂
テーマ:『感染症への戦略的アプローチ 2012』
講師:自治医科大学 感染症科 准教授 矢野 晴美先生

第82回 すこやかネットワーク 医療関係者向

日時:7月18日(水) 19:00～20:00
場所:松波総合病院 3階講堂
テーマ:『脳卒中の合併症と慢性期の管理 -その2 転倒の周辺-』
講師:松波総合病院 介護老人保健施設診療部長 岩井 知彦先生

市民公開講座 ひざの健康講座 一般向

～あなたのひざは大丈夫!?知っておきたい治療法～
日時:7月14日(土) 10:00～11:30(受付9:30～)
場所:じゅうろくプラザ 5階大会議室(JR岐阜駅隣接)
テーマ:『ひざ痛の原因は?』/『治療の最前線 薬や注射などの保存的治療と手術治療、人工関節手術について』/『質疑応答』
講師:松波総合病院 整形外科副部長 兼 関節外科副センター長 森 敦幸先生

お申し込みは下記までお問い合わせ下さい。
TEL:03-3344-2041 朝日カルチャーセンター・プロジェクト事業本部
(受付時間:月～金曜日9:30～19:00 土曜日9:30～18:30)
【申込締め切り】7月13日(金)まで ※定員になり次第、締め切らせていただきます。
定員を超えた場合はご連絡いたします。

かかりつけ医院のご紹介

羽島郡 岐南町の 岡山クリニック

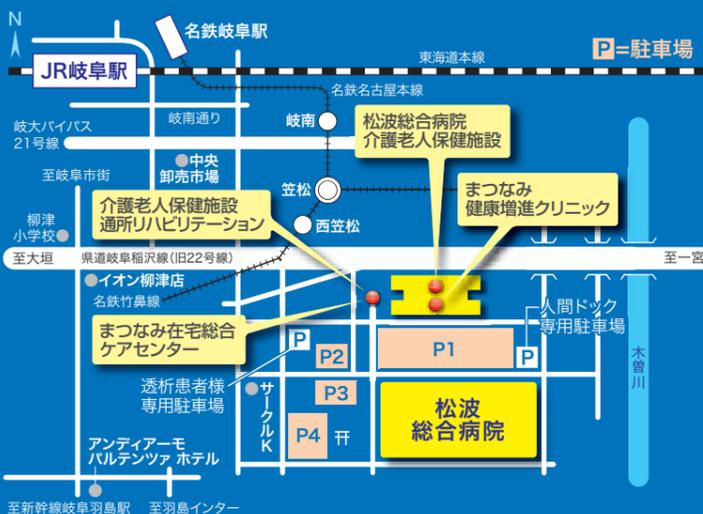
- 内科 循環器科 呼吸器科
- 小児科 リハビリテーション科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前9:00～12:00	○	○	○	—	○	○	—
午後4:00～ 7:00	○	○	○	—	○	△	—

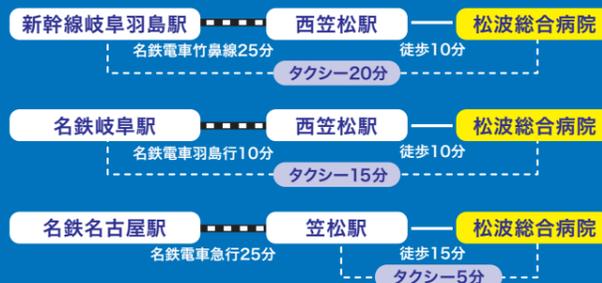
休診日 木曜日・日曜日・祝日
〒501-6016
岐阜県羽島郡岐南町
徳目5丁目101番1
☎ 058-268-0307
FAX 058-268-0308

院長: 岡山 幸弘

地域の皆さまに安心して受診いただけるような診療を心がけております。高血圧症・高脂血症、糖尿病などの生活習慣病治療、禁煙治療のほか、特定健診、各種予防接種なども承ります。お気軽にご相談ください。



遠方よりお越しの方



お気軽にお問い合わせください。

☎ 058-388-0111
http://www.matsunami-hsp.or.jp/



当院は、病院内・敷地内
全面禁煙です。
皆様方のご理解とご協力
をお願いします。

社会医療法人 蘇西厚生会
松波総合病院 〒501-6062 岐阜県羽島郡笠松町代185-1

患者さまと
病院をつなぐ
かけはし
No.153
MATSUNAMI

まつなみ

2012
7
発行
社会医療法人
蘇西厚生会

Clinical Talk

救急の現場から
救急医療センター

ひとりでも多くの命を救いたい。
それは医療に携わる者、共通の思い。

「24時間365日全ての救急患者さまを受け入れる」。これは当院が開業以来貫いてきたモットーであり、歴史と伝統でもあります。今回はその最前線で当院の救急医療を支える八十川雄図先生、前田隼人先生にお話を聞きました。



救急医療センター 医員
前田 隼人

脳神経外科副部長 兼
救急医療センター長
八十川 雄図
専門分野: 脳卒中・機能神経外科疾患・神経画像
認定資格: 日本脳神経外科学会: 認定専門医
日本DMAT登録者

「断らない救急」をめざして、全力投球の毎日です。

Q.年間どのくらいの患者さまが救急医療センターを受診されるのでしょうか。

八十川 救急車で搬送が約3,000人、自力受診が約16,000人です。心臓停止、心筋梗塞、脳梗塞、重症外傷などの重篤な患者さまから、比較的軽症の患者さままで幅広く対応しています。

Q.救急医療と一般診療の違いは?

八十川 「患者さまの命を守る」という点ではどの診療科も同じですが、大きく違うのは、患者さまの容態がいつ急変するか分からない状態で診断がついていないこと。通常は最初に診断をして治療を組み立てていきますが、救急の場合はまず意識があるかどうか、呼吸しているかどうか。していないのであれば、空気の道を確保して呼吸を安定させ、その後に診断・治療が待っている。診断の前にワンステップがあるのが救急だと思います。

Q.先生方が救急医療に携わるようになった経緯、きっかけは?

八十川 1分1秒を争う救急の現場では、すぐに動けることがとても大事です。私自身のももとの性格もありますが、経験を積み、とっさの判断で行動できるようになったことを周りの先生方も見てくださったようで、今この場にいます。

前田 僕は研修医の1年目にほぼ全ての科を回ったのですが、その中で救急に一番魅力を感じました。病名がついていない段階から患者さまと接し、そこから情報を集めて判断して、適切な診療科にバトンタッチするなどの筋道をつけてあげる。特に緊急を要する場合には呼吸循環の安定を図ることを最優先に、まず命を確保する。そこにやりがいを感じました。

八十川 処置後に、即座に好転した例を経験したときに救急の魅力を感じるようになりました。たとえば脳梗塞の有効な治療法にt-PA(血栓溶解剤)がありますが、これは発症3時間以内に開始しなければならず、まさに時間との闘いです。救急車が到着する前から準備を始め、救急車が到着後すぐにCTやMRI検査を行って、可能ならすぐに治療を始めます。実際、言葉も話せない、利き手が動かないという状態で運ばれた患者さまがこのt-PA

治療で回復し、社会復帰されている。そういう姿を見るのは私たちにとって大きな喜びであると同時に、他の臓器でも処置や時間さえ間違わなければ、命を救うことができる。そんな思いで日々診療にあたっています。

●院内に24時間、専門医や画像診断医、薬剤師、放射線技師などが待機しているというのは、総合病院の強みですね。

八十川 各診療科の先生方やコメディカルが、いかなるときも熱い気持ちで、快く対応してくれるからこそ、当院の救急医療が成り立っています。時には我々の力が及ばず残念な結果を招くこともあります。そういう悪い経験も含めて、次の患者さまの命を救うことに繋げていきたいと思っています。

●最後に地域の皆さんにメッセージを。

前田 たとえば心臓のことは心臓の専門家にはかないませんが、何でも診られるのが我々救急医です。その勉強は絶やしていないつもりなので、八十川先生をサポートしながら、若さと体力で頑張りたいと思います。

八十川 柔軟なベッドコントロール体制を行うなど、これからも救急を断らないための知恵を出し合い、地域の救急医療に貢献していきたいと思っています。ただ、大変残念なことに、当センターに来られる患者さまの中には、救急車を交通手段と見なして来られる患者さまもあり、ご指導申し上げなくてはならない場合があります。

患者さま自身、不安なこともおありでしょうが、そのために救急医療が本当に必要な患者さまが後回しになってしまう可能性もありますので、どうぞご協力をお願いいたします。





【シリーズ第1回】
救急看護認定看護師 杉原 智子

命を救うために1秒を争う。
その緊張感とスピード感が性に合っている。

認定看護師は、特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践ができる看護のスペシャリスト。第1回目は、命の砦「救急医療センター」で力を発揮する杉原救急看護認定看護師をご紹介します。

救急看護には、先読みできる能力と瞬時の判断力が必要。

救急車で運ばれてくる患者さまは年齢も症状もさまざま。予断を許さない状態の患者さまも少なくありません。その中で私たち救急看護師は、患者さまをしっかりと観察し、いまこの瞬間にすべき処置は？次に何をするのか？を瞬時に判断しながら医師の診療をサポートし、看護援助を行います。また、救急医療はチーム医療。患者さまの受け入れから処置、検査、手術といった一連の診療がチームワークよく、スムーズに流れるよう調整するのも看護師の役割です。もうひとつ、救急看護師として大事にしていることは、大きな不安とストレスを抱えている患者さまやご家族の精神的ケア。患者さまには手をにぎって声をかけたり、ご家族には患者さまの病状を説明するなど、少しでも不安を和らげるよう努めています。

災害拠点病院として、万一の災害時に備えた体制づくりにも取り組んでいます。

災害時には傷病者の受入れ等、当院は被災者の医療救護活動の中心的な役割を担うこととなりますので、八十川先生と共に、スタッフ教育や体制づくりにも取り組んでいます。また、八十川先生も私DMAT(災害派遣医療チーム)の隊員でもあるので、

万一大規模災害が発生したらすぐに現場に向かい、被災地の救急医療に携わることになると思うので、その時のバックアップ体制も整えておこうと思っています。

救急医療センター長であり、当院DMAT隊の隊長でもある八十川先生と、2人とも院内の災害訓練では中心的役割を果たしています。



救急看護の専門性を磨き、後進の育成も。

院内の教育研修や新人研修を定期的実施して、救急看護における知識の普及と看護の質の向上に努めるのも救急看護認定看護師の役割。救急外来には多様な疾患の患者さまが来られますから、看護にも科学的根拠に基づいた幅広い知識が必要。私自身も学会や研修会に参加して最新の知識を得たり、講義資料を作るために参考書を見て勉強したりと日々研鑽を重ねています。「知識はあって当たり前。そこからさらに深めて、根拠をもって何ができるかを極めないといけない」。認定看護師の研修で講師の先生から言われた言葉を糧に、これからも精進していきたいと思っています。

これからも救急看護にこだわり、極めていきたい。

看護師になって18年。最初に配属されたのがICU・CCUで、それから様々な病棟を経験し、産休と育休を取得し、戻ってきたのがこの病院の救急外来。そこから救急看護の面白さに目覚め、救急看護のスペシャリストを目指すようになりました。週に2日、大阪の研修センターに通って1年間勉強し、認定看護師の資格をとったのが3年前。現場での実践、研修、院内活動とハードな毎日ですが、救急車で運ばれてきた患者さまが元気になった姿を見るとそんな苦労も吹き飛んでしまいます。患者さま自身は大変な時で私たちのことを覚えていらっしゃるかもしれませんが、私たちは患者さま一人ひとりが記憶に残っています。これからも救急看護の知識・技術を深め、患者さまやご家族が安全で安心できる看護を提供できるよう頑張りたいと思います。



小池作業療法士の

リハビリまめ知識

もっと楽に、スムーズに着る、半身に麻痺がある方の更衣動作。

私たちは服を着替えることによって色々な環境から身体を守ったり、自分らしさを表現することができます。しかし、病気やケガなどにより一人で着替えをすることが難しくなることがあります。着替えは食事や排泄に比べると難しいものですが、着替える手順や着替えやすい服を選ぶことで、スムーズに着替えることができます。また、着やすさは服の種類により大きく異なり、ゆとりのあるサイズや、片手で操作できる大きいボタン、マジックテープの付いた服などで楽に行えます。楽に着替える方法として、片手が動かしにくい人は、着るときは動かしにくい側(麻痺側・ケガをした側)から、脱ぐときは動かし易い側(健常側)から行う方法があります。そこで、今回は半身に麻痺がある方でも座りながら楽に行える着替えの手順を紹介したいと思います。今回紹介した手順は半身に麻痺がある方だけでなく、ケガによる後遺症や肩に痛みがある方も同様に行っていただけます。介助をする場合も、同様の手順を参考にしてください。自分好みの服を着て、毎日楽しい生活を送ってほしいと思います。

- 1 麻痺側の腕からそで部分をたぐりよせながら通します。この時、肘に引っかかりやすいため、しっかり肩まで上げます。
- 2 えり口を持ち、背中に通します。
- 3 健常側の肩までまわし、通し口を手を持ってきます。
- 4 まわしたところで健常側の腕を袖に通します。
- 5 えりやそでのねじれを確認し、ボタンを下からとめます。



知ってトクする 大橋薬剤師のくすりのお話し

薬のアレルギー

薬は決められた用法・用量を守って服用しても、体が受けつけない場合があり、アレルギー症状(発疹、吐き気、頭痛など)が出ることがあります。薬の種類によりアレルギーの出やすいもの、出にくいものがありますが、どのような薬でも起こりうることです。過去に服用した薬でアレルギーが出て薬を変えた、または薬が中止になった経験はないでしょうか？一度アレルギーがでた薬は、時間をおいて服用してもまたアレルギーが出る可能性があります。どうしてもアレルギーが出た薬を使用しなければならぬ場合はアレルギーを抑える薬を併用しながら使用することもあります。アレルギーの原因となる薬は使用しないのが一般的です。

当院では入院患者さまに対し、問診票への記入に加えて薬剤師がアレルギー歴の聞き取りを行います。もし薬の名前がわからなくても思い当たるようなことがあれば何でもお聞かせください。入院中にわかったアレルギー

の可能性がある薬についてはお薬手帳への記載と、薬の名前を印字した携帯可能な「禁忌薬カード*」を作成しお渡しさせていただいています。
*禁忌薬：患者さまに悪影響を与える可能性が高く服用すべきでない薬
安全に薬を使用していただくためにも当院以外の病院にかかる場合や、薬局やドラッグストアで薬を購入する際はアレルギーのある薬を知らせておきましょう。またアレルギーの症状ではないかと気づいた際は早めに医師・薬剤師に相談し医療機関を受診することをお勧めします(外来患者さまにも禁忌薬カードの作成を行っています)。

